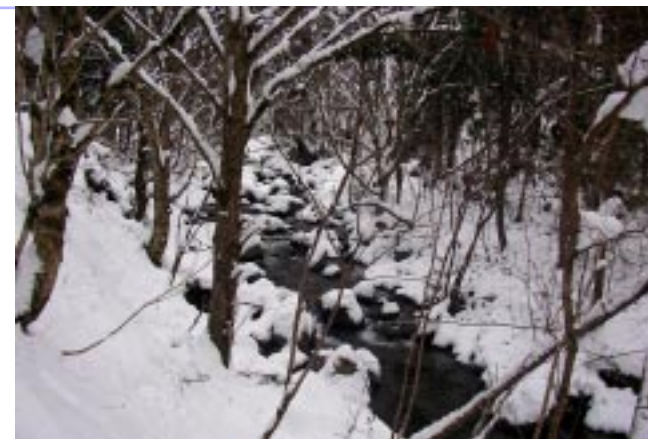




2005.12/10

氷ノ山山頂を背景に

三ノ丸にて



2005.12/10 今シーズン初の雪遊び

12月に入ってと言うものの、山フォーラムから色々な情報が飛び込んでくる。

今シーズンは暖冬どころか異常に雪が積もって楽しませてくれている。その反面に早くも立山で表層雪崩で山スキーヤー一人の命が雪に飲み込まれてしまった悲しい情報も入ってくる。今シーズンは早くから極冷えでどんどんと雪が積もっているのだが、いかんせん根雪になる暇もなく降り続けているので表層雪崩どころか、何かのショックで根こそぎに雪崩れてくるおそれがあるので急斜面などは特に要注意である。

この大雪に期待を込めて我がWhiteBirdも氷ノ山に照準を合わせることにする。メンバーに声をかけるとBirdgirlの恵を筆頭に3人が集まった。まずは無難にXCスキー&スノーシューで雪の状態を調べに入山した。

【山域】氷ノ山

【場所】兵庫県

【日時】12月10日(土)

【コース】ヤマメ茶屋(XC スキー)--- 坂の谷林道(スノーシュー)--- 三ノ丸往復

【メンバー】私・木倉・大本・恵

【装備】XC スキー&スノーシュー

【天気】曇り / 晴れ

姫路を5時半に出る頃は極冷えで車のフロントガラスは真っ白に凍っていた。

戸倉峠手前から道路脇に雪が見え始めてくる。外気温は - 3度、まあまあの気温である。戸倉スキー場は真っ白でシールで登行すれば面白いシュプールが描けるであろうが、今日は山スキー装備は持参していない。シーズン当初は必ずXC スキーとスノーシューからとWhiteBird は始まる。



ヤマメ茶屋



スタート



河面の林道

ヤマメ茶屋に着くと林道はブルドーザーで雪壁が作られていた。装備を降ろし車を29号脇の駐車場に移動する。

去年は20日頃でも坂の谷林道手前まで車が入れたのに今年とはとんでもない雪量である。早速林道入り口からXC スキーを履けるのがありがたい。昨夜降った雪の下にはショートスキーのトレースが残っているではないか・・・やはり好き者がいるのには好感がもてる。しかしこれだけ降ればここからワカンを履いて三ノ丸往復はよほど早い時間にスタートしなければピストンは無理であるので、この林道コースはXC スキーが向いていると言えるだろう。

坂の谷出合いに着く頃は9時半過ぎ・・まずまずの出だしである。ここでスノーシューに履き替えて三ノ丸避難小屋を目標に登山開始。毎年のことながら杉林の登山道は雪の重みで軟弱な杉は耐えられずに倒木になり行く手を阻まれること必至である。

ようやく杉林ティンバーラインに達すると視界は明るくなりブナの樹林帯へと進んで行くのだが、雲行きが怪しくなり始めて三ノ丸の笹ヶ原に達するころになると視界が50mほどになってくる、回りのいブナ林はクリスタルと化し幽玄の世界にいざなわれるかのように神秘的に満ちている。



倒木に阻まれる



雪も多くなってきた



スノーシューに履き替えて



杉林を抜けて



幽玄の世界に



クリスタルブナ林

もう一降りか二降りもすれば氷ノ山特有のチシマ笹も雪に覆い尽くされて三ノ丸も雪原に化すことだろう。しかし目標物がなくなるので視界 50 m では完全にホワイトアウトになるので GPS とコンパスがなければ行動不可能になる。



視界 50 m に

体感温度 - 15 度位の吹雪を顔面にまともに受けながら寒さ格闘してようやく避難小屋が見えてきた時はなんともありがたい気持ちで一杯である。相棒は髪の毛も氷と化して白髪になっている。早速に暖を取り暖かいスープで食事休憩に入る。

体も暖まってさぁ下山準備と、小屋の戸を開けると、な、な、何と吹雪は収まり青空が見えて太陽が顔を出してきているではないか！。180 度の展開に皆大歓声を上げて、早速に三ノ丸展望台までスノーシューを運ぶと・・・、そこから見える山頂付近のスノーワールドは今ここに来た者にしか味わえない素晴らしい世界が広がっている。この 10 年氷ノ山に通い続けているがこれほどに素晴らしい景色は見たことがない。風と雪と気温がうまくコラボレーションしなければ作り出せない光景である。



ようやく避難小屋へ



山頂付近はスノーワールド



三ノ丸雪原はもうすぐだ

いつまでも見ていたいけど時間も13時を回っているので下山準備に取りかかる。帰路はトレース通りに進んでいけばいいので全くに問題ない。



雪華乱舞



帰りはトレースを忠実に

シーズン始めに素晴らしい恵みもらった氷ノ山の山の神に感謝！、そしてよき仲間乾杯！



お疲れさんでした